

きちんと知ろうエイズ（HIV）のこと

私たちの体には、ウイルスや細菌、カビなどの病原体から体を守る「免疫」という仕組みがあります。

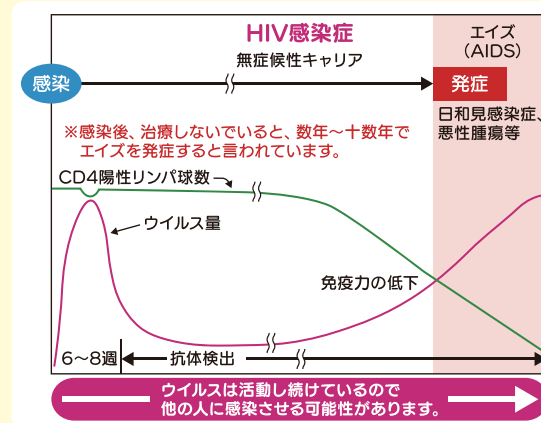
HIV(ヒト免疫不全ウイルス)は、主に人間の免疫力の中心的な役割を果たすCD4陽性リンパ球に感染し、これを破壊します。このため、普段なら何ともないウイルスや細菌、カビなどの病原体に感染しやすくなり、様々な病気が引き起こされます。こうして起こる病気を総称してエイズ(後天性免疫不全症候群)といいます。

最近のエイズ治療

エイズが発見された1980年頃は薬がなく、エイズを過度に恐れた人々によってエイズ患者はひどい差別を受けました。HIVは会話や握手、食事などの日常生活では感染しませんが、正しい知識がなく、HIV感染を理由に職場への採用が取り消されるなどの差別がおこっていました。

現在でも、HIVに感染した人から完全にウイルスをなくす薬は開発されていませんが、エイズの発症を遅らせる薬や免疫力が低下して起こってくる感染症に対する薬は研究が進んでいます。そのため、早期発見・早期治療を行うことができれば、HIVに感染しても長く生きられるようになりました。

早期に感染が分かった人のほとんどが、薬を飲みながら今まで通りの生活をし、感染していない人と変わらない社会生活を送っています。



性感染症に関する検査

性感染症が心配なときは、神戸市保健所（無料・匿名）や病院で検査を受けましょう。

保健所の検査の詳細は、ホームページをご確認ください。

※感染の機会から約3ヶ月以上経過していないと正確な結果が得られない場合があります。

※18歳未満の方はお受けいただくことができません

神戸市性感染症検査



相談窓口

(1) 各区保健センター・市役所内保健所保健課 平日9:00～17:00

区役所	所在地	電 話	区役所	所在地	電 話
東灘	東灘区住吉東町5丁目2-1	841-4131	長田	長田区北町3丁目4-3	579-2311
灘	灘区桜口町4丁目2-1	843-7001	須磨	須磨区大黒町4-1-1	731-4341
中央	中央区東町115番地	335-7511	北須磨支所	須磨区中落合2丁目2-6	793-1212
兵庫	兵庫区荒田町1丁目21-1	511-2111	垂水	垂水区日向1丁目5-1	708-5151
北	北区鈴蘭台北町1丁目9-1	593-1111	西	西区梶台5丁目4-1	940-9501
北神	北区藤原台中町1丁目2-1	981-5377	保健課	中央区加納町6丁目5-1	322-6789

(2) 民間団体の相談窓口

HIVピアサポートグループ（コパン）	神戸市を拠点に活動するHIV陽性者の自助グループ。 原則、毎月第2土曜日の午後、神戸市内で定例会を開催。 電話:090-6608-7480(随時)/soudan-hiv@softbank.ne.jp
財エイズ予防財団	エイズに関する相談電話 平日:10～13時/14～17時(祝日・年末年始除く) 電話:0120-177-812(携帯電話からは03-5259-1815)
AMDA国際医療情報センター	電話による外国語での医療機関の情報提供 (Telephone Consultation for medical matters) 電話:0120-339-266 平日:10～16時(祝日・年末年始除く)

悩まないで相談してね!



(3) インターネットによる情報提供

HIV検査・相談マップ	全国の検査機関・日時などの紹介サイト https://www.mhlw.go.jp/hivkensa/
API-Net エイズ予防情報ネット	エイズに関する情報提供サイト https://api-net.jfap.or.jp/

知っとこ ホンマのこと

みんな知ってる? 性感染症

性感染症にかかったかもしれないとき



病院や保健所で実施している
検査を受けましょう

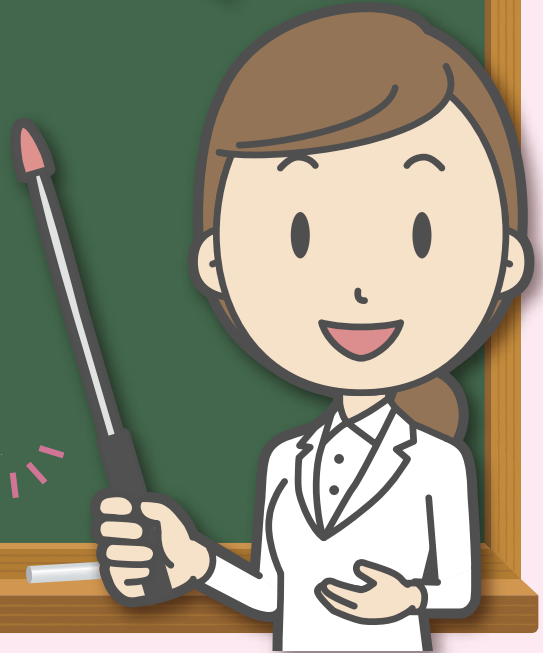


性感染症の

早期発見

早期治療!

正しい知識で
予防しましょう



性感染症の概要

近年、10～20代の若者を中心に性感染症が増えています。性感染症とは、主に性行為（セックス）によって感染する病気のことです。性感染症の中には、症状があらわれない、また症状があっても気づきにくい病気もあるため、知らず知らずのうちに感染し、他の人へ感染を広げている場合もあります。「私は大丈夫!」と思っていても、性行為の機会があれば誰にでも起こりうる病気です。

性感染症はどのような病気で、どうすれば予防できるのかを知り、自分自身を、また大切な人を性感染症から守りましょう。

神戸市

性感染症って何？

性感染症とは、主に性行為によって感染する病気のことをいいます。

感染した(病気にかかっている)人の精液、膣分泌液、血液のほか、性器、口腔などの病原体をもった場所の分泌液が、性行為によって相手の性器、口腔、肛門などの傷がついた粘膜に触れることによってうつります。病気によって、感染部位の痛みやかゆみ、排尿痛、おりものの異常から、まったく症状のない(無症状)のものまで、症状も様々です。

また、原因となる病原体もウイルス・細菌・原虫などいろいろあります。

※このパンフレットでいう性行為(セックス)には、膣性交、口腔性交(オーラルセックス)、肛門性交(アナルセックス)を含みます。

性感染症をしっかり防ごう!!

①正しい知識を身につけよう

性感染症を予防するには、感染予防や症状、治療について正しく知ることが大切です。

②自分の意思をはっきり表示しよう

性行為の時、コンドームの使用をパートナーに言い出せなかったことはありませんか?自分のからだを守るのは自分だけです。パートナーとしっかり話し合い、意思表示をしましょう。

③NO SEX(セックスしない)

ノーセックスも予防のための大事な選択肢です。

④SAFER SEX(より安全なセックス)

コンドームを正しく使うことが有効です。口腔性交、肛門性交でも性感染症に感染します。感染を防ぐためには、コンドームの正しい使用が大切です。

Q1 特定の相手だから大丈夫…?

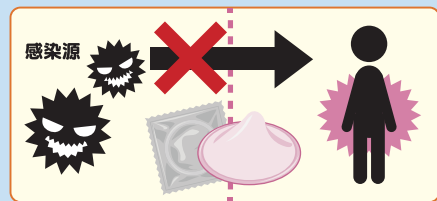
あなたがつきあっているパートナーは1人でも、そのパートナーが過去につきあっていた人の中に感染者がいた場合、パートナーも感染している可能性があります。もちろん、不特定多数の人と性行為があれば、感染リスクは上がります。

Q2 口腔性交(オーラルセックス)なら大丈夫…?

梅毒や性器クラミジア感染症、淋菌感染症など、口腔性交によって口唇(くちびる)や舌、咽頭(のど)などにも感染する可能性があります。

Q3 日常生活の中で感染することはない…?

「もし周囲に性感染症の人がいたら…」と不安に思う人もいるかもしれませんが、多くの性感染症は、通常の生活の中で感染することはまずありません。ただし、血液がつきやすいカミソリや歯ブラシ、ピアスなどの共用は避けましょう。



ピルでは性感染症は防げません。



性感染症に感染したかもしれないとき・・・



性感染症は早期発見・早期治療が大切!

ほとんどの性感染症には、治療方法があります

ほとんどの性感染症は、早めにきちんと治療すれば治ります。医師の指示に従って、確実に治療しましょう。しかし、再発しやすいものや、一生のお付き合いになるもの、治りにくいものもあります。

「もしかしたら…」と思ったら、恥ずかしがらずに医療機関を受診することが一番大切です

ほとんどの性感染症は検査で感染しているかどうかわかります。神戸市保健所では、HIV・梅毒(血液検査)の検査を無料・匿名で実施しています。

※18歳未満の方はお受けいただくことができません

他にも医療機関(泌尿器科、皮膚科、婦人科など)でも検査を受けられます(有料)。

また、パートナーと一緒に検査をうけ、必要ならば、一緒に治療しましょう。治るならかかっても良いとは思わずに、予防しましょう。

ほとんどの性感染症は何度でも感染するおそれがあります。治療後も性感染症の予防に気をつけなければなりません。

おもな性感染症 症状に気がいたら医療機関へ

梅毒 近年増加

最近感染者が増加している。病気が進む中で、症状の出ない時期もあり、治ったと勘違いしてしまうことがあるので注意が必要。妊娠中に梅毒に感染していると、胎盤を通じてお腹の赤ちゃんにも感染する。(死産、早産、奇形など)

症状 第1期: 感染した部位に赤みのあるしこり(初期硬結)、中心部がへこんだできもの(硬性下疳)(痛みはない)。太もものつけ根のリンパ節が腫れる
第2期: 全身に紅い斑点ができる(手のひらにも)
潜伏期: 無症状(それまでの症状が消える)
晩期: 心臓・血管・脳などへの障害

潜伏期間 3週間前後

性器ヘルペスウイルス感染症

一度感染すると、体内の神経にウイルスが潜伏して再発を繰り返すことがある。

口唇(くちびる)に多いI型と陰部に多いII型がある。

症状 感染部分に水疱・潰瘍ができる。
※症状がないこともある。
急性: 外陰部の強いかゆみ・痛み、発熱

潜伏期間 2～10日

尖圭コンジローマ

性器にかゆみを感じることもある。先のとがったカリフラワーのようなイボがたくさんできる。肛門性交で、肛門に感染することもある。

症状 イボ状の小潰瘍ができる。痛みはない。

潜伏期間 3ヶ月前後

子宮頸がん

子宮の入口にできる女性特有のがんで、性交時にHPV(ヒトパピローマウイルス)が感染して起こる病気。20代後半から40歳前後まで増加し、日本では1年間に約1万人が発症している。

症状 初期の段階では症状はほとんどないが、進行するとおりものが増えたり、不正出血がある。
ワクチンと検診 HPVの感染を予防するワクチンあり。平成25年(2013年)から小学校6年生から高校1年生相当の女性を対象に定期接種(無料)の制度あり。20歳から子宮頸がんの市民検診制度あり。

性器クラミジア感染症

男女ともに症状が軽いため、気がつかないことが多いが、放っておくと、男性は精巣炎や前立腺炎になったり、女性は、不妊や子宮外妊娠の原因になるので注意が必要。

症状 男性: 約半数が無症状、排尿時の痛み
女性: 約8割が無症状、約2割におりものの増加、軽い下腹部痛
※口腔性交で咽頭(のど)に、肛門性交では肛門に感染することもあるが、多くは無症状。

潜伏期間 2～10日

淋菌感染症

男性は排尿時の痛みやペニスの先からの膿(うみ)で気がつきやすいが、女性は症状が軽く、感染していても気がつかないことが多い。放っておくと、男性は精巣上体炎、女性は子宮頸管炎などから不妊症の原因となる場合がある。

症状 男性: 排尿時の痛み、ペニスの先からの膿
女性: 無症状、軽い排尿痛、おりものの増加

潜伏期間 2～7日

B型肝炎

B型肝炎は急性と慢性に分けられ、成人における急性B型肝炎の多くは性感染症が原因。慢性化すると肝硬変や肝がん等、健康に重大な影響を及ぼす。

母子感染や血液感染(針刺し事故、薬物乱用等)でも感染する。

症状 急性肝炎の場合、発熱や倦怠感等がある。
慢性肝炎の場合、はっきりとした症状が出ず、気がつかないうちに肝硬変や肝がんに行進する。
B型肝炎ウイルスの感染予防のためのワクチンあり。

ワクチン

潜伏期間 1～6ヶ月

HIV感染症／エイズ(後天性免疫不全症候群)

ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染により免疫が低下する病気。病気が進行すると、次第に抵抗力が弱まり、普段なら何ともしないウイルス、細菌、カビなどの病原体によって、色々な病気が引き起こされ、エイズを発症する。

症状 感染初期(6～8週ごろ)
一過性の発熱やリンパ節の腫れ、のどの痛みなどがあるが気がつかない人も多い。
無症候期(数ヶ月～数年) ※個人差あり
特別な症状はない。
エイズ発症: 日和見感染や悪性腫瘍、脳神経症状